

2021年度 はつしば学園小学校 学校評価

1 教育目標

<p>2023基本構想(第2次・中期計画) 学園理念〈夢と高い志、挑戦、貢献、そして、未来創造〉 教育理念「高い知性、強靱な気力、豊かな情操の育成」 ～自らの能力や個性を生かし、創造的に生きることによって、社会に貢献し世界で活躍する人材を育成する～</p> <p>○目指す学校像</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受験に対応できる学力を育み、内部進学から難関国私立中学校まで幅広い進路選択が可能な学校 ・個性を大切に、将来社会に出て必要とされる様々な力の基礎を育む学校 ・初等教育機関として社会的評価を有する学校 <p>○育てたい児童像</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な人々との共生と協働の道を探求し、社会で活躍できる子ども ・社会の変化に柔軟に対応できる素地を持つ子ども ・人間形成の基盤となる豊かな心を持つ子ども ・夢を抱き、その実現に向けて取り組もうとする知的エネルギーをもつ子ども <p>○教育の特色</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「きく」こと、「聴き合う」ことを大切にした「グループ・ペア学習」を基盤として、「確かな学力」を身に付けるために、深い学びを実現するアクティブラーニング ・英語力とコミュニケーション力が身につく充実した「英語教育」「国際教育」 ・全学年を通して、創造的活動を展開する「サイエンス教育」 ・ICT機器を効果的に活用し、論理的思考力を養い、協働作業を行う中で積極的にコミュニケーションを図り、発信力を高める「プログラミング教育」 ・様々なひと・もの・ことにかかわる、豊かな心の教育 ・一人ひとりの能力に応じ、より高い学力を身に付けるための発展的学習

2 中期的目標

<ol style="list-style-type: none"> 1. 幅広い進路選択を可能にする確かな学力の養成 2. 社会の変化に柔軟に対応できる力の素地の養成(主体性、多様性、協働性、学びに向かう力、人間性等) 3. 豊かな心の育成 4. 英語教育の充実 5. はつしばサイエンスの充実・深化 6. 支持基盤の確立 7. 安定した学校運営

3 学校教育の自己診断と学校関係者評価委員会の意見

学校教育自己診断の結果と分析	学校関係者評価委員会からの意見
<p>①児童募集において、出願数109名、入学者数89名(前年度比同数)であった。昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、制限が多くあったが前年度と同数の入学者数を確保することができた。</p> <p>②中学進学実績においては、内部進学者数38名(前年度43名)、内部進学率は42.2%(前年度48.8%)であった。外部難関中学校の受験においては清風南海は20名の合格者があったが、他の中学校は例年並みとなった。</p> <p>③保護者アンケートは、肯定的評価(あてはまる、ややあてはまる)90%以上の項目は30項目中、21項目であった。前年度より評価が上昇している項目は11項目、下降している項目は11項目であった。 ※新型コロナウイルス感染症の影響を受け、「国際教育(留学生との交流)」は実施していないため調査をしなかった。また、新たに「国語」「算数」「社会」についての項目を追加した。全27項目→30項目</p>	<p>①委員会の体制 地域代表者(登美丘南校区自治連合会会長) 保護者代表(保護者会会長) 学識経験者(大阪教育大学 非常勤講師) 校長・教頭・事務長</p> <p>②委員会の実施日 第1回 2021年7月26日 第2回 2022年3月17日</p> <p>③自己評価の結果に対する評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元にある学校が栄えることは望ましい。これからも、時代のリーダーになる子どもを育ててほしい。 ・コロナ禍の中GIGAスクール構想が急速に進み、これからは3OS(Microsoft Windows、Google Chrome OS、iPad OS)の時代が来るだろう。はつしば学園小学校は先端を進んでいるので、これを継続し未来を見据えた教育活動に大いに期待している。 ・保護者としては、外部受験に関する情報には興味が高いので、頑張ってほしい。また、子どもの個性を伸ばす中で、(他の私学に負けない意味で)もっと鋭くともよいのではないかと思う。

4 本年度の取り組み

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価	次年度に向けての改善策
1 幅広い進路選択を可能にする確かな学力の養成	(1) 学力推移データ等に基づく現状分析と課題の整理	・到達度テストの学年別現状分析・課題整理と継続検証 ・改善内容の整理、計画をした上での実施	・内部進学率及び難関中学校の合格実績の向上	・内部進学率は42.2%(昨年度48.8%)であった。難関中学校実績について、最難関の灘中学校受験者はなく、それ以外は例年並みとなった。	・進路指導のための懇談会を効果的に実施する ・系列中学校との連携をさらに強め、判定基準を明確にして、進学体制の強化を図る ・通知表の評定(5段階)を判定資料とした進学体制の整備 ・学力を高めるための授業のあり方(習熟度別学習含む)を再構築する
	(2) 授業内容の改善・充実	・校内研修の充実 ・教科研究のもと新任研修を実施、教員の授業レベル向上を図る	・実施計画通りの校内研修の実施	・校内研修は、新任研修は実施できたが、他の研修については新型コロナウイルスの影響を受け実施できなかった。	
	(3) 進路指導体制の再編	・習熟度別学習(高学年)の課題整理 ・算数、国語の習熟度別授業の実施と効果的指導の検証 ・教科による学習到達度を明確にし、授業を充実し個々の学力向上を計る	・高学年で習熟度別授業を実践、その効果を検証する。その上で授業改善に活かす	・習熟度別学習は、予定通り実施できた。分割する数を増やすことで細分化できた。	
	(4) 内部中学校と連携した学力検証の仕組みづくり	・内部中学校のプレテストや入試問題の研究 ・保護者への周知	・プレテストの積極的受験や入試対策の充実	・2学期以降の習熟度別学習を希望する学校別授業に変更し、内部中学校への受験促進ができた。	

		・通知表の評価(3段階)を評定(5段階)に変換(基準値などの検討)		通知表の評価について、校内で議論を進め、5段階評価の評定基準を設けることができた。	
2 社会の変化に柔軟に対応できる力の養成	(1)「グループ・ペア学習」の深化	・学年研、教科研の計画実施	・「グループ・ペア学習」が実践できたか	・新型コロナウイルスの感染拡大を受け、「グループ・ペア学習」を行うことが難しかった。担任団の工夫により聴き合う授業を行った。	・コロナの影響で実施できなかった「グループ・ペア学習」を復活し、学級作りを行い、授業の質の向上をめざす。
	(2) 宿泊体験学習の充実	・宿泊活動実施後の検証・改善 ・各学年で実施する宿泊活動の内容を検証し次年度へ繋げる	・学校評価アンケートの満足度が上昇したか	・宿泊行事は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、修学旅行を含め、全学年規模を縮小し行き先を変更して実施した(1年は実施せず)	・iPadを活用した新しいプログラミング教育を構築する。
	(3) プログラミング学習の実践	・プログラミング教育実施に向けての実践と研修及び内容検討 ・ICT環境の整備 ・次年度以降の実践に向けた準備と研修	・プログラミング教育の実践方針が策定できたか	・タブレット端末をiPadに機種変更し3・4年で導入した。新しいソフトを活用し創造的活動を実践することができた。	
3 豊かな心の育成	(1) あたり前のことをあたり前にする心(思いやり・自主自律・公正公平・勤勉など)の育成	・思いやりの心の育成 ・道徳部会を中心に授業実践研究、評価のあり方を検討 ・自問清掃の見直しと改善(振り返りノートとの連携)	・計画通りに実施できたか ・振り返りノートの記入で心の変容をみることができたか	・道徳の授業実践を積み重ね、教科研究を行い、評価のあり方を共有した。	・道徳の授業実践の積み重ねを継続し、校内研究授業を行い、教員間の共有を図る
	(2) 児童支援体制の整備	・教育相談体制の充実 ・サポート会議を軸とした教員間の情報共有 ・スクールカウンセラーと連携し、学校・保護者との共通理解を図る ・学校の取組みを保護者へ周知する ・いじめ対策の見直しと改善	・学校評価(保護者)アンケートの満足度上昇 ・教育相談、サポート会議等が計画通りに実施できたか ・学校評価の保護者への公開 ・いじめの早期発見・解決を可能にできたか	・学校評価(保護者)アンケートの項目で上昇したものがあつた。評価の結果は保護者に公表した。 ・スクールカウンセラーによる保護者・児童との相談は継続して実施した。	・教育相談、メンタルサポート会議を継続し、保護者の安心度向上をめざす。 ・いじめの早期発見、早期対応を目的とした学校全体の計画実施
4 英語教育の充実	(1) 英語教科化を踏まえた指導目標・学習内容の体系化	・4技能をバランスよく育成 ・各学年の指導目標の明確化と目標達成のためのカリキュラム作成	・英語4技能をバランスよく育成できたか ・学校評価(保護者)アンケートの満足度上昇	・「GrapeSEED」による年間120時間の授業を行うことができた。ノートを活用し「書く」活動の強化をすることができた。	・「GrapeSEED」による授業の検証を図り、何学年まで継続するか検証する
	(2) 授業の充実	・「GrapeSEED」の実践とその効果検証 ・ネイティブ講師と日本人英語教員との連携による授業の実践充実 ・主教材を軸として学齢の興味に沿った教材の選定と実践	・「授業評価アンケート」の満足度上昇 ・新教材の導入はできたか	・保護者アンケートの評価は減少した。英語検定受検のための対策として新しい教材を採用し指導した。高学年でオックスフォードリーディングの教材を採用し「読む」活動を強化した。	・高学年の授業充実と教育課程の構築を図る ・英検受験対策の強化を図り、受験者の合格率向上を目指す
	(3) 上位層を伸ばす仕組み作り	・英語によるプレゼンテーション活動の充実 ・インタークラスでは発展的内容を盛り込んで児童の意欲を伸ばす	・英語プレゼンテーション活動は計画通りできたか ・活動に工夫を加え充実が図れたか	・授業の中で、達成目標に変化を持たせ活動の充実を図った。英語プレゼンテーション活動は実施できた。保護者・児童のアンケートの上昇は見られなかった。	・国際理解教育の実践を目指し、対面およびオンライン交流活動を計画し実施を目指す
	(4) 英語力の検証システムの構築	・英検受験のための計画と受験対策 ・英検受験の上位級(3級以上)取得者の増加	・英検の取得率上昇並びに上位級取得者が増加したか	・英語検定の対策授業を行った。英検取得率は上昇した。3級以上の上位級の取得者も増加した。	
5 はつしばサイエンスの充実・深化	(1) 理科に関心を持つ心の育成	・中学受験に対応した学習支援 ・学教評価アンケートの上昇 ・理科担当教員の授業力向上 ・「はつしばサイエンス」の見直し ・校内到達度テストの検証、得点力向上	・計画通りに実施できたか ・学校評価アンケートの上昇があつたか ・理科部会を定期的に行うことができたか ・生活科のカリキュラムを見直し理科を意識した授業が行えたか ・到達度テストの得点力向上ができたか	・夏季学習会で、理科担当教員の集中指導を行った。駿々堂学力テストの学校偏差値は上昇した。 ・保護者・児童アンケートの評価は目標を達成した。 ・理科部会を前年度同様に実施できた。新型コロナの影響で実験を計画通り実施することができなかった。	・夏季学習会の継続実施。受験科目としての理科の学力向上を目指す ・生活と理科の連続性・系統性教科のため教員間の共有を図る
6 支持基盤の確立	(1) 「大人の集い」の継続	・「第4回大人の集い」の継続開催	・「第4回大人の集い」を実施し、参加者は卒業生の約6割が参加したか	・新型コロナウイルスの影響を受け「第4回大人の集い」(2020年度成人)は開催できなかった。「第5回大人の集い」は規模を縮小し校内で実施できた。	・「大人の集い」の継続実施 ・ホームページの卒業生サイトの効果的運用計画見直し
	(2) 卒業生への連携強化	・卒業生交流サイトの構築と活用の検討 ・卒業生の進学並びに進学後の追跡調査	・卒業生交流サイトは構築できたか ・卒業生の進学先並びに追跡調査はできたか	・ホームページのリニューアル計画に伴い、卒業生ページについても新規構築ができた。	・保護者と連携した寄付金政策の構築
	(3) 保護者会との連携と支援体制の強化	・保護者会との連携強化の計画実施 ・「おやじの会」の継続並びに連携強化	・「おやじの会」は活動を継続し行ったか	・新型コロナウイルスの影響で保護者会主催の「おやじの会」は実施されなかった。	

<p>7 安定した学校運営</p>	<p>(1)募集定員(90名)の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問地域・訪問幼児教室等の重点化 ・募集行事や外部説明会の参加者数増加 ・広報活動の積極的展開 	<ul style="list-style-type: none"> ・重点地域への募集活動強化 ・和泉市並びに近隣市町村の訪問の重点化 ・幼児教室との連携強化 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・募集関係行事の充実 ・外部での説明会の内容検討及び校内説明会等への誘導強化 ・校内説明会の内容の工夫と目的の明確化 ・説明会の参加についてWEB申込みシステムの導入 ・ホームページのリニューアル ・はつしば学園幼稚園との連携強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・重点地域への募集活動強化ができたか <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・園や幼児教室と連携した外部での説明会等が実施できたか ・校内説明会の内容を工夫し、さらにWEB申込み導入などにより、入学希望者の参加が上昇したか ・ホームページのリニューアルができたか ・はつしば学園幼稚園との連携が計画通りに実施できたか 	<ul style="list-style-type: none"> ・和泉市への訪問活動を強化、新規に和泉府中駅にスクールバス乗降所を設けることを決定した。(2022年度より開設)保護者への周知を図った。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響を受け6月前半まで説明会や訪問活動を行えなかった。 ・6月のオープンスクール以降は感染対策を講じつつ開催することができた。個別の授業見学を多く受け入れ、入学希望者の対応を図った。 ・出願者数はほぼ前年度同様だった。 ・ホームページのリニューアル計画を進めることができた。(2022年度全面リニューアル) ・はつしば学園幼稚園との連携事業はほぼ計画通り実施できた。内部進学者数は7名(昨年度10名)であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールバスの新規コース「和泉府中」の周知と重点的訪問活動 ・JR阪和線沿線と西区方面の募集活動強化 ・ホームページリニューアルによる効果的な広報活動を目指す
-----------------------	---	--	--	---	--